

## 第36回評議員会 平成29年度 予算案可決

平成29年3月9日(木)午後6時より、県歯会館地階「大会議室」にて平成29年度第36回評議員会が開催された。点呼により評議員定数75名のところ出席評議員71名欠席評議員4名で(のちに遅参評議員4名を追加し、75名出席を確認)、評議員会の成立が花村欣也議長(厚木)より宣言された。

開会の挨拶を高橋宏嘉副会長が行い、議事録署名人名には青木則博評議員(大和)、山本一臣評議員(保土ヶ谷)が選定された。



富田連盟会長の挨拶

富田篤会長は挨拶で、「3月5日に自民党の全国大会が行われ安倍総裁から神奈川県歯科医師連盟に感謝状をいただき、3月3日には日歯連盟都道府県会長会議が開催され、高橋英登日歯連盟会長は「歯科医療が日本を救う!」というパンフレットを作られ、大変わかりやすく国民に歯科の大切さをわかっていたいただけるようなものなので、広く知れ渡ってほしいと思う。

又、国民のために大切な歯科医療を守るために連盟としてたゆみないロビー活動が必要であり、来年の診療報酬改定の時に少しでも評価していただけるような結果が出ることを願っております。連盟の活動によって受けた恩恵は会員

のみならず非会員も受けているが、非会員が歯科医師会、連盟に物申すことは腹立たしく思っております。これには会員のメリットを増やし会員の増強のための努力が必要なのでございましょう。さらに努力していく所存であります。本会の鈴木駿介会長が大いに努力され環境を整えていく意味で、いざというときの歯科医師会、困ったときの歯科医師会を目指しておられます。そうした本会の事業をバックアップするために連盟としては努力をいたしてまいります。本日は29年度事業計画にかかわる案件をメインにご審議いただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます」と述べた。



鈴木県歯会長の挨拶

次に、県歯鈴木駿介会長は挨拶で、「本会は執行部を立ち上げて間もなく2年を経過しますが、会長予備選挙の立候補が私のみだったので引き続き29、30年度の会長をお引き受けすることになると思います。来年は医療保険と介護保険の同時改定がございます。消費税の先送りもあり財源不足からアップはそれほど見込めないと思っておりますが、島村参議院議員からマイナスにはしないと話をいただいております。だげできればプラスにさせていただきたいと思

ております。在宅、高齢者への点数が厚くなると思われませんが、口腔機能低下症のような新しい病名の導入による点数の評価も期待されています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、選手、スタッフ、観客の歯科的問題が起きた時に我々がどのように対応していくかを、そろそろ固めておかないといけない。国際的な貢献と合わせて事業の推進の中に入れていくということも考えている」と述べた。

報告において、小泉敏和常務理事が庶務報告を行い、次に日歯連盟常任監事であり神歯連盟顧問の中村昌人先生が日歯連盟報告を行い、検察捜査の現状の説明と日歯連盟再生のための12の提言を掲げて活動している、と報告した。



島村参議院議員の国政報告

島村大参議院議員からの国政報告では、「今193回通常国会が開会中で、参議院厚労委員会で筆頭理事をやらせていただいている。国会の運営の仕方やどのように法案が作られるかを肌で感じている。口腔保健推進法改正時にはどのように良くしていくのか、先生方のお知恵をお借りしてしっかりやっていきたい。国民の意見をどのように取り入れていくかが重要。歯科に関しては重要項目として挙がってきているので、どのように予算がつけられるか、しっかり考えていきたい。データヘルスの考え方で、政府はレセプトをビッグデータとして蓄積し活用したいと考えている」と話した。また私見として、「国保や組合の財政が良くない中、口腔の健康管理が進むことで全身の健康が保たれ医療費も下がるということを神奈川県歯科医師国保がモデルケースとなって示していくことができ

たらよいと思っている」と述べた。

続いて鶴岡裕亮理事長から、①顧問弁護士の委嘱について ②平成29年7月1日からの地域別評議員選出数について ③神奈川県歯科医師連盟専用電話番号設置についての報告があり、檀上修常務理事からは、来年度の地域デンタルミーティング開催は10地区限定で補助すると説明した。さらに、鶴岡理事長は、役員報酬の改正について追加報告し、役員報酬支給規則では「会長は常務理事会の議を経て役員報酬算定委員会を設置することができ、役員報酬算定委員会に諮り常務理事会で決め評議員の承認を得なければならない」と規範関係を説明し、「については6月の評議員会にて委員会設置についてお諮りし、承認いただければ時期執行部において申し送り事項とさせていただきたい」と報告した。

議事に入り川田俊一副議長（磯子）に交代し、第1号議案 西村まさみ神奈川県後援会解散に関する件、第2号議案 神奈川県歯科医師連盟平成29年度事業計画（案）に関する件、第3号議案 神奈川県歯科医師連盟平成29年度会費賦課並びに収納方法に関する件、第4号議案 神奈川県歯科医師連盟一般会計平成29年度収入支出予算（案）に関する件においてすべて挙手多数で可決承認された。



挙手多数で可決承認

最後に森副会長が「慎重審議ありがとうございました。我々執行部は今後も本日の議決事項に則り執行させていただきますので、評議員の先生方のご協力もよろしくお願いいたします」と閉会を述べ散会した。

## デンタルミーティング IN かながわ



開催にあたり謝辞を述べる富田篤会長

平成29年2月16日（木）午後6時より、神奈川県歯科医師会館地階・大会議室にて「デンタルミーティング IN かながわ」が行われた。

鶴岡裕亮理事長の進行の元、高橋宏嘉副会長の開会挨拶により開会された。

富田篤会長はデンタルミーティング開催にあたり「デンタルファミリーの代表者の皆さん、歯科衛生士会、歯科技工士会、そして大変お世話になっている県議会議員の先生方にお集まりいただきました。本当に感謝しております。基調講演の後には鳥村大参議院議員が座長となってデンタルミーティングを開かせていただきます。先生方からも忌憚のないご意見をうかがって、日歯連盟トップの高橋英登会長に聞いていただけたらと思います」と挨拶した。

神奈川県歯科医師会の鈴木駿介会長のご挨拶では、関係各位への謝辞に続いて、「超高齢社会を迎え歯科環境整備も急務となっている。なかでも訪問歯科へのニーズは今後ますます高まっており、オーラルフレイルの早期発見、早

期改善のための施策を計画し実行していかなくてはならないと考えております。そのためには歯科健診の法的バックアップが不可欠であり、山田議員が目指している国民皆歯科健診の実現に向けて国会議員の皆様の一層のご尽力を切にお願い申し上げます」と述べた。

日歯連盟高橋英登会長の挨拶では、「この素晴らしい国を支えていくのは我々歯科医師連盟の役目だと思っております。議員と手を組んで



日歯連盟より高橋英登会長の挨拶





熱の入った山田宏議員の講演

らないことから、皆様に熱心に周りに声をかけていただいたおかげと感謝し、皆様の熱意と信用を受けて今の私があると思っております。皆様から、お願いした方に当選してよかったね、と言っていただけのように、任期をきちっと務めることをお約束いたします」と決意を述べた。

「自民党には歯科医師の資格を持つ議員が6名おりますが、それで足りない分は私が道を開いていく。それが私の仕事であります。



政権幹部と距離が近いので濃い話をされる山田議員

41歳で私が杉並区長に就任した時は、財政再建の大きな柱が国保でした。これには健康政策をするしかないと思い、いろいろ調べ、当時の杉並区歯科医師会の高橋英登会長に話を聞いたところ、歯科健診・歯科治療を行った方の年間医療費が下がるという資料をいただいた。そこで杉並区ではクリーニング付きの健診を行った。同時に小中学校ではきれいな洗面台を設置しブラッシング指導を行ったところ、翌年のイ

ンフルエンザの罹患率がかなり減った。財政再建から入った仕事でしたが、実は歯科というものを通じて医療費が下がり、皆さんが健康になり財政再建につながる、という実感を得てきたのが区長時代でした。

この先、高齢化が進むと国の財政では皆保険が維持できなくなる危惧があり、国民の負担を増やしてサービスを削ることになる。そうならないためには、歯科から入るしかないと思っております。

医師は病気を治す、いわば疾病対策。歯科は今までのエビデンスから見ても、なるべく発症させない、重篤にさせないという予防であります。

つまり健康政策なのです」と実体験からの政策を説明した。

「自民党がJファイルに書いてきた、成人健診や労働者一般健診の中に歯科健診を位置づけることを進め、健診を増やすことが医療費の削減につながるということを日本の柱にしていかななくてはならない。

口と全身の健康が結びついているというエビデンスはたくさんあるが、国として確認したことはない。厚労省が検証を進めている『歯科口腔保健による健康への影響に関するエビデンスの検証』、これを3年間やって国が確認できれば、石井みどり先生が取り組んでおられた歯科健診を広めようじゃないか、ということになる。総医療費のなかでの歯科の割合を増やすにはそういうことが必要だ。



かなり歯科事情に詳しい話をされる山田議員

また、地域包括ケアを考えるうえで、歯を治して患者さんがよく食べられるようにしたうえで家に帰すことが必要になってくる。長い目で見れば歯科に重点を置いたほうが医療費は下がるので、今は歯科に予算をかけるほうが良い。というように持ってこなければならぬ」と熱弁した。

また、「指導監査についてはテーマが3つあり、①集団的個別指導の選定基準を変えるべき。②おおむね妥当の判定後のインターバルを伸ばすこと。③個別指導の際の患者資料、持参物を合理的にする。等を検討している。私のような正規軍ではないものが突破口を開いて、石井先生、島村先生のような正規軍が厚労省などとの人間関係も含めて政策を構築していくことが必要」と話した。

また、「国会内に歯科口腔医療勉強会を立ち上げ、詳細な知識を得て力を出せるようにしている」とこれからの10年を見据えて頑張っている状況を語った。



島村大参議院議員による司会

デンタルミーティングに入り、島村大参議院議員が座長として、宮坂宗行副会長が副座長として協議を進行した。宮坂副座長は、新病名検討に関して、いわゆるオーラルフレイルを「口腔機能低下症」という病名で定義されれば歯科にとって明るい」と説明した。また、皆歯科健診に対する風は追い風である。来年のトリプル改定に向かって在宅に傾きすぎている歯科医療政策の中で置き去りにされている一般歯科のアク

セスを増やすには、まさに健診にあるのではないかと述べた。



石井みどり参議院議員が厚労省との関りを説明

石井みどり参議院議員は、「一般医療は疾病保険だが歯科医療は予防ができる。医療政策に結び付けるにはロジックとエビデンスが必要。歯科保健課が予算を使ってエビデンスを検証している。データヘルスとして医科と歯科をいかにつなげていくか、この動きを推進して医療費の適正化に歯科が貢献するというのを全国レベルで行っていけば歯科の未来は明るい」と述べた。厚労省との付き合いについて「役人を動かすにはまず法律を通す、予算を取る、税制、これで汗をかけば動いてくれる。そういう人間関係を作ることが大事。私の10年ではここは頑張らせていただいた。山田議員にはさらに頑張らせていただき、しっかりフォローしていきます。私が思い切ることができないことを山田議員にやっていただき、それをきちんとした現実の政策に繋いでいくのが私の仕事だと思っている。素晴らしい方を国会に送っていただいた」と述べた。

大和市長の大木哲氏（歯科医師）は、「大和市では健康ポイントに歯科健診を導入した。オーラルフレイルに関してもトップランナーとして取り組んでいきたい」と説明した。

又、新しく自民党8020議員連盟会長に就任した佐藤光県議は、「今まではフレイルの中にオーラルフレイルが組み込まれていて事業費がついていたが、今回は別枠でオーラルフレイルとし



新会長として挨拶する 佐藤光県会議員

て事業費がついている」と県議会事情を話した。

小川久仁子県議は、「歯科条例が制定され5年経ったので見直しの際には今日勉強したものも入れて先駆的に変えていかななくてはならない」と話した。

桐生秀昭県議は、「厚労省がエビデンス検証していなかったというのは目から鱗、神奈川県でモデル地区を作ってやるのがよいのでは」と話した。



前列左より佐藤光県議・小川久仁子県議・桐生秀昭県議・  
 嶋村ただし県議・磯本桂太郎県議・中西健治参議院議員  
 後列左より大木哲大和市長・萩原鉄也伊勢原市議

嶋村ただし県議は、「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定したことの説明をした。

磯本桂太郎県議は、「給食後の一斉歯磨きがインフルエンザ予防につながるという旭区の小学校の記事について、全校がそのような環境にはなく、洗面台の整備等についても教育委員会に働きかけていきたい」と話した。

中西健治参議院議員は、「在宅歯科が増えていく中で歯科衛生士の数が足りないのでは」と

話した。

萩原鉄也伊勢原市議会議員（歯科医師）は「健康寿命延伸について歯科のウエイトはあるにも



萩原伊勢原市議より伊勢原市の事情を説明

関わらず市では全く考えてくれている。健康教室では受講者は同じ人が多かったりするのでもっと歯科に関心を持つ人のすそ野を広げたい」と話した。

質疑にて永田勝彦君（旭区）は、「1.5歳、3歳児健診はあるが、そのあとに4.5歳児健診を入れたほうがよいのでは。福祉保健センターで行う健診として、親と同伴して教育できる機会を増やしていくことが必要」と訴えた。



旭区永田会長より乳幼児健診のあり方を提議

最後に閉会の挨拶で森洋行副会長は、「山田先生の勉強会メンバーに安倍首相の弟様の岸信夫氏も顧問として入っていると聞きました。これからも、このように頑張っている山田宏先生への応援を、よろしくお願いたします」と締めくくった。



森友学園問題のさなかに、アサド政権による化学兵器や、北朝鮮のミサイル発射その両方にトランプ氏が反応し、軍事的対応をした。化学兵器に対して安保理ではロシアが拒否権、中国は棄権。

ある評論家は安倍政権の支持率維持のために、そしてトランプ氏の支持率を上げるためには何よりの突発事件であると語っていた。

「支持率」はともかくとして、地球上の「万物の霊長」といわれる人間の争いは情けないことだが、歴史の中から消え去ることはないようだ。ペンス米副大統領は「力が平和を維持する」と述べている。個人の考えとして、「自分の後姿を見れないのは自分だけ」という、常に自

分の考えを示し、問うことのできる仲間が必要と思う。「思い上がり」はいけない。反対する仲間を排除するのではまったく意味はない。

さて、4月6日、厚労省の「新たな医療の在り方を踏まえ、医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」の報告書を示した。その中に「歯科保健指導、メンテナンス等の予防歯科を更に推進し、必要な財源的支援に努めるべき」とある。この検討会のメンバーに歯科医師、歯科衛生士も含まれていない。それ自体は残念だが、「歯科の大切さ、財源的支援の必要性」が明記されたということに励みに、県歯科医師会としてもオーラルフレイル議員連盟の力を借り、県行政と共に県民のための健康に関わっていく、良いチャンスだと思う。

(文責 富田 篤)

## 第37回 神奈川県歯科医師連盟評議員会 開催のお知らせ

日時 平成29年6月15日(木) 午後6:00より

場所 神奈川県歯科医師会館 地階 大会議室

神奈川県歯科医師連盟 電話設置のお知らせ

直通電話番号 045 (307) 6555